



連載

みんなで盛り上げよう！ 東京オリンピック・パラリンピック

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



NPO法人新町スポーツクラブ ＜群馬県高崎市新町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、NPO法人新町スポーツクラブ(群馬県)が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

第1回 みんな一緒にウキウキ交流会

実施日時	2017年3月26日(日)10時～12時
実施会場	高崎市立新町中学校体育館
参加者数	83名 障がい者38名(46%) <ul style="list-style-type: none">・身体障がい者10名～15名・知的障がい者20名～25名・精神障がい者5名～8名程 健常者45名(54%) <ul style="list-style-type: none">・幼児～中学生24名、一般参加者10名、主催団体関係者8名・学校、行政関係者3名 ※このほかに、12名の講師(ボッチャ10名、スローエアロビック2名)が参加
主 催	高崎市手をつなぐ親の会新町支部、NPO法人新町スポーツクラブ 高崎市身体障がい者団体連合会新町支部、自遊空間みちくさ(ボランティア団体)
主 管	NPO法人新町スポーツクラブ
共 催	新町体育振興会、新町地域スポーツ推進員
後 援	(公財)群馬県スポーツ協会、(公財)群馬県障がい者スポーツ協会
協 力	群馬県ボッチャ協会、うすねニュースポーツクラブ(沼田市)

＜パラリンピック・ムーブメント＞

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動

※「第2期スポーツ基本計画」参照



1 企画経緯

相模原障害者施設殺傷事件を受けて新町内の障がい者団体の方から新町区長会へ、障がい者も健常者も一緒に参加できるイベントを何か開催してほしいとの要望がありました。区長会長から新町スポーツクラブへ企画運営について相談があり、クラブとしてもオリンピック・パラリンピックムーブメントのことを考えていたことから障がい者団体とクラブが一緒になってこの交流会を企画しました。今回の経費は、新町体育振興会から特別助成金10万円を出していただき、講師謝金などに充当しました。

当初は行政区の代表者(新町区長会長)に事業の開催依頼がありましたが、区長会では困難との理由からスポーツクラブにお願いしたいということになり、区長会長と体育振興会長が検討して助成金を支出していただきました。

2 企画内容

- 準備体操** スローエアロビック(講師はうすねニュースポーツクラブ2名)
- ボッチャ体験** 講師は群馬県ボッチャ協会10名
3コートに分かれて、ボッチャのルール説明、スロー体験
健常者チームと障がい者チームに分かれて対戦
子どもたちは、健常者・障がい者の混成チームもあった。
- クールダウン** スローエアロビック

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 健常者も障がい者も一緒に楽しくパラリンピック種目を体験できました。
- すごく楽しかったです。このようなイベントは継続してほしい。
- パンフレットにもあった「まぜこぜ社会」の大切さを感じました。
- 今回のように健常者と交われる機会は、とてもありがたい。特に子どもの時から自然に接してくれる機会は、今まで地域になかったので嬉しいことです。ぜひ、継続して実施していただきたい。(知的障がい者の保護者)
- 障がいがあってもアクティブに動く努力をしている人がいることを知ってもらえる機会でありたい。(身体障がい者)
- 地域の子どもたちが自然と障がい者と一緒に楽しんでいる姿が新鮮で、見ていてウキウキしました。(障がい者団体)



運営者の声(実施後)

- 初めての企画だったので健常者と障がい者がまぜこぜにできるか心配したが、最終的に一緒になって楽しんでいたのでホッとしました。すごく楽しかったです。このようなイベントは継続してほしい。
- 学校の体育館は老朽化しているため、多目的トイレはもちろん、洋式トイレもない状況で、企画運営側としてこのような点に配慮が足りませんでした。今回のように健常者と交われる機会は、とてもありがたい。特に子どもの時から自然に接してくれる機会は、今まで地域になかったので嬉しいことです。ぜひ、継続して実施していただきたい。(知的障がい者の保護者)
- 初めての企画として比較的円滑に実施することができた要因として、障がい者団体の方とクラブと一緒に企画運営委員会を組織して実施できたことと福祉協議会との連携協力がありました。

4 企画運営委での議論や工夫

- 地域への告知方法が一番の課題でした。高崎市広報からも広報誌への掲載について声をかけていただきましたが、高崎市全体から集まるリスクも考えて広報する範囲、パンフの配布方法について時間をかけて議論しました。
結果として、①主催団体からパンフを関係者に配布する、②事前告知は、新聞社から掲載する連絡があったら掲載してもらうことにしました。
- 障がい者団体は、高崎市の中に合併町村の支部があり、細分化されていることから、様々な団体への連絡方法には連絡漏れがないように気を使い、運営委員で確認しました。
- 新聞社へのアプローチは、新聞社の立場になって「売れる見出しと内容」を意識してパンフを作成し、開催日5日前にFAX送信し、担当記者には個別に取材依頼を電話でしました。普段から記者と仲良くしていることが大きなポイントです。今回の売れる見出しは、「障がい者も健常者もみんなまぜこぜ社会へ」です。



5 企画運営上の重要ポイント

- 障がい者の団体は細分化されていますが、行政窓口として「社会福祉協議会」があります。この組織と連携することが重要で、なおかつ円滑に事業を進めるポイントです。
- 障がい者が参加することから障がい者用トイレの有無について、確認する必要があります。また、「てんかん発作」などの疾患についても想定する必要があるため、看護師の常駐は絶対条件です。
- 障がい者スポーツに対する健常者の感覚は、「軽い道具で簡単にできる」という安易な心構えになってしまう傾向があります。ルール説明の際に、道具の重さ、使用方法を体感してもらって想定している道具とは違うことを知ってもらうことから始めると良いと思います。また、健常者が障がい者を意識し過ぎると本来の交流にならないので、自然体に接することが大切ということを運営者側が留意する必要があります。子どもが良い潤滑油なってくれます。

6 今後の展望

- 参加したみなさんからも強い要望があることから、健常者と障がい者が一緒に体験できるイベントを継続して開催する予定です。
- 新町内の小学校からもPTA事業として開催したい旨の連絡があり、クラブと学校が連携して体験教室を開催することになりました。
- 2017年度から群馬県障害者スポーツ協会と県内総合型地域スポーツクラブが協力して県内4か所で障害者スポーツ体験交流会を開催します。

(NPO法人新町スポーツクラブ 小出利一)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成12年11月23日

所在地 群馬県高崎市新町地域

特徴 平成9年度からスポーツ少年団を核にした総合型地域スポーツクラブの育成を始めて、子どもたちを中心にしたスポーツ活動等を実施してきた。次世代育成事業として、平成11年からニュルンベルク市スポーツユースと定期青少年国際交流事業を実施している。また、平成27年度から、「赤ちゃんと保護者のためのベビーダンス教室」、「高齢者向けの貯筋運動教室」も開催している。

連絡先 〒370-1301 群馬県高崎市新町2483-2
 電話番号 0274-42-2198(携帯:090-3912-0043)
 FAX 0274-42-2198
 E-Mail koide.svc@chive.ocn.ne.jp
 URL <http://shinmachi-sc.org/>



健常者と障がい者混成チームでボッチャの試合を体験しました。



健常者、身体・精神障害がある様々な人たちが笑顔で楽しく体験出来ました。



朝日新聞群馬県版3月24日付けに事前告知記事として掲載されました。



上毛新聞3月27日付けに当日の様子が掲載されました。

